

## 火を消し・命を守る「みず」 防災水利計画の概要

この防災水利計画は、防災まちづくりの会の水利部会がまとめたものです。ここでいう防災水利とは、災害時の消火用水と飲料水を指しています。

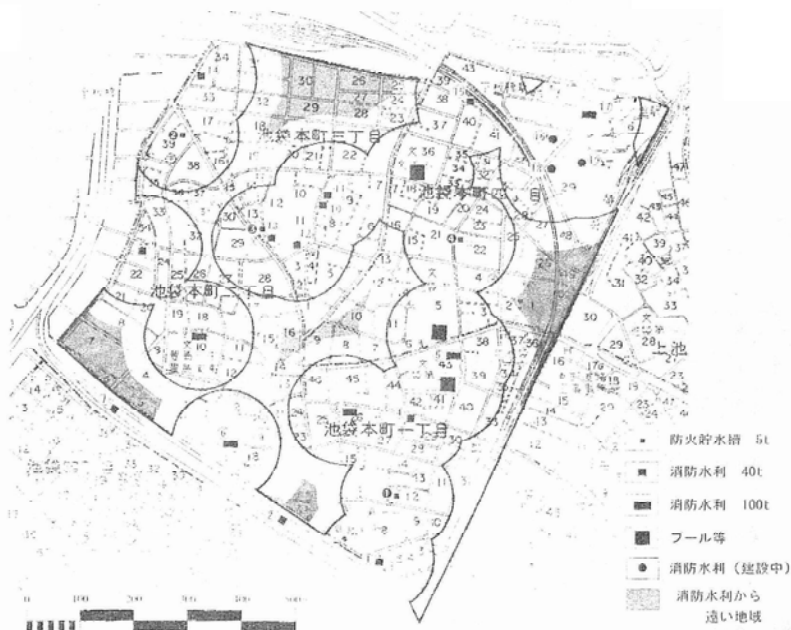
ふだん、私たちはあまり意識することなく水を使っています。しかし、大地震が起こると水道は断たれてしまいます。この防災水利計画は、災害に備えて水を街の中に蓄えておく計画であるとも言えます。

火災と戦うためには、消火用水がきめ細かく、かつ十分な量で配置されていることが必要です。計画では消火用水について次の整備を提案し、区に要望しています。

- ・貯水槽の不足している地区への貯水槽の設置
  - ・既存の貯水槽やプールの水が使いやすいように改善
  - ・学校への井戸の設置
  - ・既存貯水槽の耐震性確保
- 飲料水は、地震直後の2～3日を生き延

びるために無くてはならないものです。現在ペットボトルの備蓄やプールの水が飲めるように濾過器を配備していますが、さらに次の整備を計画しています。

- ・学校への深井戸の設置



## 街・町・まち

このコーナーでは、わがまち池袋本町の話題をご紹介します

池袋中学校、創立50周年記念

### 「同窓生の集い」6月1日に開催

豊島区立池袋中学校は、今年、創立50周年を迎え、これを記念し、「同窓生の集い」が以下の内容で開催されます。主催は、地元在住の同窓生有志からなる「同窓生の集い実行委員会」（田中勝年委員長、第8期生）。参加対象者は、第1期から第50期のすべて。また、記入希望者のみで同窓会名簿を作成する計画です。卒業生にとっては懐かしい母校で旧友と再開するよい機会ともなるでしょう。当地を離れた同窓生とも連絡をとりあって駆けつけてみてはいかがでしょうか。

なお、学校主催の記念行事は11月15日に現役在校生を中心に行われる予定です。

- ・日時……平成9年6月1日（日）午後1時受付、午後2時開会～午後4時
- ・会場……池袋中学校（上履きをご持参ください。）
- ・参加費……500円
- ・イベント……池袋中学校吹奏楽部の演奏ほか
- ・問い合わせ先・☎3982-1199・仙波（18期生）

(((皆さんの声  
(((皆さんの声  
(((皆さんの声

このコーナーでは、  
地元の皆さんのお便りなどを  
掲載していきたいと思ひます。  
●防災まちづくりの会への  
ご意見・ご希望  
●まちの話題  
などを広報部会へ  
お寄せください。

宛先：  
豊島区東池袋1-19-1  
（財）豊島区街づくり公社  
池袋本町防災まちづくりの会  
広報部会行

発行：池袋本町防災まちづくりの会  
豊島区都市整備部地域整備課  
企画・編集：池袋本町防災まちづくりの会  
（財）豊島区街づくり公社

問い合わせ先：（財）豊島区街づくり公社・事業推進課  
☎（3981）1111 [内線] 2383 担当/石川・田中・泉傳  
編集協力：防災都市計画研究所  
☎（5706）6031 担当/吉川・小野・曾田

## 池袋本町

# 防災まちづくり

ニュース

Ikebukuro Honcho  
Bousai-Machizukuri  
News

no. 7

豊島区広報印刷物 H20-08-194  
平成9年3月発行

## （防災まちづくりイベントを） 開催します 於 池袋本町公園

部長登場

### 水に燃える ～水利部会 稲田源太郎～

私は、常々、区が設置した防火水槽の配置に大きな不安を持っています。というのは、地図にその配置を書いてみると判りますが、間隔が広すぎて、各町会で持っているミニポンプでは消火ができない所があるからです。

もし、大地震の時に池袋本町で大火災が起こったら、遠くの避難場所には避難できないと考えた方がいいと思います。まず火を出さない、万が一火が出ても小さなうちに消し止める、これが大切なんです。大地震の時には消防車は池袋本町には来てくれません。来たくとも道路が狭くて入ることができません。そうすると、火を消し止めるのは我々住民の仕事です。そのために、すべての家がミニポンプで消火活動ができるように、きめ細かな貯水槽の配置が必要となります。

私はこれまでも、区の防災課に貯水槽の増設を訴えてきましたが、なかなか聞いてもらえませんでした。このほど、この計画書を防災まちづくりの会から区に提出することが

できました。この計画（4頁参照）をもとに、一日も早く安心して暮らせる街ができることを願っています。



水利部会部会長  
稲田源太郎さん  
（池袋本町四丁目在住）

## まずは水から 防災水利計画完成

防災まちづくりの会では、昨夏のまちづくり提言以降、具体的なまちづくり計画について5つの部会を設置して検討を行ってきました。このほど、最初の計画として防災水利計画をとりまとめ区に提出しました。

防災まちづくり計画には多くの内容があります。そのすべてを短期間に整備することは困難です。しかし一方で地震はいつ起こるか判りません。防災まちづくりは、できるものは速やかに、かつ、時間がかかるものについても着実に、整備を進めていく必要があります。この防災水利計画は、地区の課題として最も緊急に整備が必要である「みず」についてとりまとめたものです。区にはこの計画書をもとに、出来るところから順次、水の整備を進めていくことを望みます。